ロジスリドン　in 富士　参加の感想

20220907　全国路地のまち連絡協議会

今井晴彦

富士川、富士山、太平洋と雄大な自然と、網目のような豊富な水路、東海道、歴史など色々な要素がぎっしりとつまった地域で、今回のイベントも充実したと思う。それも路地とかスリバチとか行き止まりとか、都市のご迷惑物を見つけて喜んでいる人間が、それ以外の地域資源にも目がいった。その他発見したこと。①旧東海道の脇に三角点があったこと、②翌日元吉原の近くで源平合戦した富士川の平家陣営があったと碑があり、富士川はドンでもなく東に流れていたのだと分かったこと、③富士川の物揚げ場で反映した船山町に対し、その出発点ともいうべき韮崎の釜無川の河岸も船山といったこと。

また地域の方々が本当に色々と丁寧に案内していただき、誠にお世話になり、感謝しています。ますます地域が元気になりますように。

三角点

何でもないが気持ちいい路地はやはりいい

堀田紘之

富士川沿いの河岸段丘の上にある旧東海道をメインとするコースであった。所々で富士山と富士川を望む贅沢な道中である。新幹線の窓越しに見るたびに得をした気分になっていたが、迫力が違いお得度も倍加する。田中光顕が別荘古渓荘を作ったのもむべなるかなだ。

また、東海道五十三次を補完する間の宿があることを岩淵宿に来るまで知らなかった。本陣常盤家で大名たちが船を待たされ、暇を持て余していたごろごろしていた姿が偲ばれるようである。常盤貴子の所縁の家であるという説明も一興であった。

旧東海道ということで、古い街並みの雰囲気が残っているのではと思っていた点では、やや物足りなかった。また、新富士駅を在来線と接続できなかったのは、勿体ないことであったと飲み会で話題になった。

常盤邸

富士川橋たもとから望む富士川

小浪博英

路地らしい路地はありませんでしたが、富士川右岸から昔の渡しを見下ろす光栄寺からの眺めは忘れられません。電線類を地中化した通りを歩きながら、昔の参勤交代に思いを馳せるのでした。

富士川橋たもとから望む富士川

伊藤雅彦

うかつにも炎天下行軍を想定せず受け身のまま参加したが、従って河岸段丘を直に体感できた。特に富士川をまたぐ橋や水道管等インフラから街全体の特性も感じられ、歴史的な地政学な側面が理解できよかった。偶然にもアーケード街での朝市に遭遇したが、富士山を借景とする工業城下町としての都市の発展も考えさせられた一日だった。

富士川橋たもとから望む富士川

富士駅前の商店街の朝市

荒木克成

毎度出たとこ勝負によるまち歩き、路地めぐりを重ねることで「自己感覚の歴史」が作られるのだとの独りよがりの作法を今回も貫いてみた。

初日の富士川に削り取られた旧東海道と周辺の路地めぐりにて、富士川の急流の勢いや見上げる富士山の初夏の表情、此処彼処で垣間見た日本のランドマークの揺るぎなさ、女優常盤貴子の名前が耳につく旧小休本陣常盤家、岩淵一里塚や翌日訪れた蒲原の宿の旧和泉屋、志田家住宅主屋、とりわけ古谿荘に親しむ会主催の田中光顕伯爵顕彰展の会場となった旧五十嵐歯科院等の名所旧跡に知的興奮を覚え、東京スリバチ学会、ドンツキ学会、古谿荘に親しむ会、路地協のスピーカーによるトークセッションを含めて、「興味尽きることなし」のイベントとなった。

旧五十嵐醫院

また、蒲原の宿からJR蒲原駅までの途中で、前日の懇親会で戴いた地魚、地酒に加えて鰻屋よし川にて、うな重と桜エビのかき揚げに地酒を重ねて戴き、ほろ酔い加減も手伝って、JR清水駅から世界文化遺産・三保の松原まで足を延ばすことになり、全国路地サミット並みの高揚する時間が得られた。

猪瀬典夫

幹線道路脇の身延線柚木駅に初めて下車し、どんな街歩きが始まるのかと期待と不安。

最初の雁堤は、江戸時代の治水事業の壮大さに感心。

富士山・富士川を眺めながらたどり着いた渡船・物資の集散地として栄えた岩渕宿は、常盤家住宅などの歴史的建築物が残っているとともに、新たに居住地として選ばれるロケーションの魅力も発見であったが、何といっても段丘に雛段状に形成された旧宿場町の構造に驚いた。

富士川駅への行程で、段丘沿いに歩きながら、産業都市として発展してきた富士市の市街地を見ながら、江戸時代から昭和・現代へ連なる富士市のまち魅力を実感しました。

旧岩淵宿常盤邸前から望む富士

一里塚

雁堤

段丘に雛壇状にまちが形成

三橋重昭

当日は東海道線車内で小浪さんと一緒になり、富士駅で乗り換え身延線柚木駅に 20 分前に到着。昼食や飲料と思ったが、駅周辺には自販機も見当たらずそのまま出発。冨士川民族資料館で木村さんからペットボトルの水を頂き、息をついた。

富士山、富士川は新幹線車内からはよく眺めるが、この橋を歩いて渡るとは思わなかった。

駅からほどなく人柱供養塔脇の階段を登ると、山神社、そして急に視界が開ける雁堤を 1kmほど歩いて橋のたもとの水神社から富士川橋を渡る。

富士川橋からの眺め

旧東海道冨士川の渡し跡から河岸段丘を登り旧東海道と旧身延街道の分岐点、旧東海道の“間の宿岩淵地区。岩淵地区で路地のまち歩きを楽しむ。本陣常磐家、一里塚跡、歴史民俗資料館があり、岩淵の歴史を知ることができた。

一里塚跡

歴史民俗資料館

その後の東海道線冨士川駅までは下り道。冨士川駅から次の富士駅で降り、富士山を正面にみる富士本町商店街を通り富士交流プラザへ。富士市交流プラザでは古谿荘に親しむ会森佑司事務局長から街の歴史等をお聞きし、また東京スリバチ学会皆川典久会長、ドンツキ協会齋藤佳会長の話も私にとっては新鮮だった。

富士本町商店街

会場風景

谷津倉さんやご案内いただいた方々、ボランティアの方々のおもてなしには感動しました。

懇親会も楽しかったです。　　皆様、ありがとうございました。

髙尾利文

富士川沿いの路地の特徴は、なんといってもダイナミックな風景を抱えているところ。富士川を北側から、新東名高速道路、東名高速道路、旧東海道、東海道本線、東海道新幹線、国道1号という国家レベルの大動脈が密度高く横断し、視力のすぐれた人は見渡すことができるのではないか。

柚木駅12時発・富士川15時着で、およそ5kmを3時間。標高の低い所19m・高い所46mで、差は27m。富士川橋を右岸へ渡ると登り行程に。急傾斜地崩壊危険区域から入り、高くなるほど新しい旧東海道となる。

なお、当日の旅程は、自宅～(徒歩)～東十条～(京浜東北線)～東京～(新幹線)～新富士～(谷津倉さんの自家用車)～岳南富士～(岳南電車)～吉原～(東海道本線)～富士～(身延線)～柚木～(路地歩き)～富士川～(東海道本線)～富士～(徒歩)～富士市交流プラザ～(徒歩)～居酒屋・山海～(徒歩)～新富士～(新幹線)～東京～(京浜東北線)～東十条～(徒歩)～自宅であり、富士市では、岳南鉄道に乗車できたのが良かった。

「旧道を楽しみたい」木村晃郁

富士市には、旧東海道が東西に貫いており、旧吉原宿や岩淵間宿がある。こういう情報を聞くと、古民家や町屋が残る風情ある街並みを想像しがちである。私も、はじめて富士市を訪れたときはそうした街並みがどこかに残っているのではないかと期待したものだった。

しかし、旧吉原宿である吉原商店街には、その面影を残す建物はほとんどなく、道路幅員もかなり広くなっています。街区も旧東海道を中心として碁盤の目に整備され、街道裏抜ける路地も見られない。ただ、吉原商店街を外れると町や建築や古民家が所々に見られ、やはり旧東海道なんだなと改めて感じることができた。

旧岩淵宿についても、同様に旧小休本陣であった常盤邸を除いて、やはり風情を感じられるものは少なかった。また、旧岩淵宿から一里塚までは車の交通量も多く、歩道もなく街道歩きを楽しむ環境にはなっていない状況であった。ただ、旧岩淵宿には枡形（鍵の手になっている道路線形）が残され、側溝のグレーチングには「岩淵　東海道ルネッサンス」のロゴが刻印されていた。

いずれにしても、旧東海道では風情を感じることはできなかった。例えば、歩道部分のアスファルトに石畳状の切り込みを入れたり、沿道の塀に黒板を貼り付けるなど、ちょっとした工夫で旧東海道の風情を演出でき、街道歩きやまち歩きなど観光資源に活用でいるとともに、地域の方の旧東海道という資源を再認識する機会になるのではないかと思う。

ただ、岩淵宿につながる旧身延道は、狭い旧道に木造家屋が軒を連ね、段丘に沿って道も緩やかなカーブを描くとともに、坂と階段により表情豊かな街並みを形成していた。旧身延道は、沿道居住者の完全な生活の道となっており、まち歩きなどを行うには生活者の皆さんの理解を得ることが必要なると思われる。

吉原商店街

富士駅近くの町屋

旧岩淵間宿の枡形

東海道ルネッサンスのグレーチング

旧身延道の街並み

「湧水を巡る路地」木村晃郁

富士市はその名の通り富士山から駿河湾に至る富士山とその麓のまちである。そのため、富士山からひだ状に伸びる丘陵の端部では湧水が多く見られる。こうしたところは傾斜地であることもあり、路地状の細い道が巡っている。今回、東京スリバチ学会とともにこの一部を歩くことができた。

岳南鉄道藤岡駅に集合

岳南鉄道は懐かし電車が現役で働いている。旅客電車は元東京の井の頭線の車両である。

いきなり現れた道路脇の水路の水量と流速の早さ、そして清冽さに驚かされた。こうした水の流れというものは、眺めていても飽きが来ないもので、ふと気がつくとツアーのメンバーが、既に遠くに小さくなっているのに気がつき慌ててしまった。

しばらく路地を行くと、突然開けた地に出て、湧水の池が広がった。池の中央と下流部に水が湧き出ていて移動しばらく水面を見つめていた。きれいで静かである。池の名称がどこにも表示していないが、googleによる丸池というようである。

さらに、行くと医王寺の前の「泉の里湧水公園」に出る。湧水の中央に中州状になっている歩道を進むと何故か飛び出し注意と子供に絵が描かれている。ここは車は通らないから自転車向けか。中州から西側の対岸へは八つ橋状の板橋が架けられ、幼児と両親が水面を見つめている。伸びやかな空間である。

路地の脇を流れる水路

水路脇には石碑や地蔵などが置かれている

まち歩きマップ看板

泉の里湧水公園

丸池

医王寺の前西に向かって路地に入るとすぐ、木造家屋をリノベーションしたと思われるカフェが準備中である。店主と思われる人が、我々にどうぞ休んでいってくださいと声をかける。スリバチチームに入っていなかったら寄るところであるが、スリバチチームは体育会系で、カフェには目もくれず次の地点を目指して突進して行くのである。

路地と湧水と神社を巡る内に、秀逸な路地と出会った。細い路地に入るとすぐに左にカーブする。そのカーブしたところに辨財天がまつられている。額縁に由来等が書かれているがガラスが反射して良く読めない。

その前の路地をさらに進むと突き当たって右に折れる。両側の塀も1.2m位で閉塞感がない。右に折れるところの住民と会話になり、東京から来たと告げるとこの路地は頼朝の通った道だという。大河ドラマ「鎌倉殿の13人」にタイムリーな話題であった。

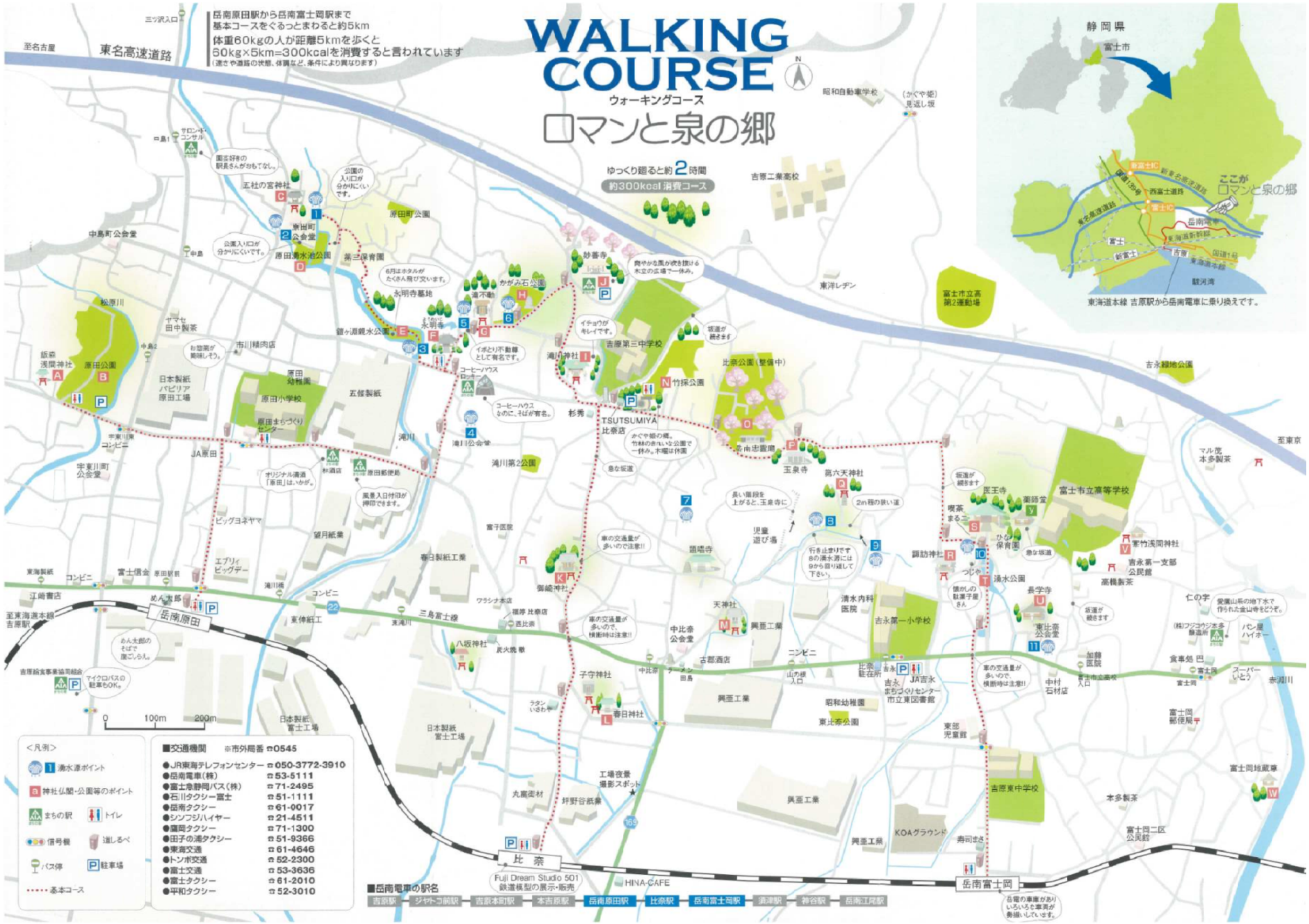
富士市には路地がないと嘆いていたが、伸びやかな素敵な路地に出会え、満足感のあるツアーとなった。

丘陵際の路地と水路

リノベーションカフェ？

左に折れる路地、突き当たりが辨財天

頼朝が通ったという路地


WALKING COURSE
ウォーキングコース
ロマンと泉の郷
岳南原田駅から岳南富士岡駅まで
基本コースをぐるっとまわると約5km
体重60kgの人が距離5kmを歩くと
50kg×5km=300kcalを消費すると言われています
（道や道路の状態、体調など、条件により異なります）
ゆっくり廻ると約2時間
約300kcal消費コース
静岡県
富士市
ここがロマンと泉の郷
東海道本線 吉原駅から岳南電車に乗り換えです。
東名高速道路
至名古屋
至東京
至東海道本線 吉原駅
岳南原田
比奈
岳南富士岡
<凡例>
湧水源ポイント
神社仏閣・公園等のポイント
まちの駅
トイレ
信号機
道しるべ
バス停
駐車場
基本コース
■交通機関 ※市外局番 ☎0545
●JR東海テレフォンセンター ☎050-3772-3910
●岳南電車(株) ☎53-5111
●富士急静岡バス(株) ☎71-2495
●石川タクシー富士 ☎51-1111
●岳南タクシー ☎61-0017
●シンフジハイヤー ☎21-4511
●鷹岡タクシー ☎71-1300
●田子の浦タクシー ☎51-9366
●東海交通 ☎61-4646
●トンボ交通 ☎52-2300
●富士交通 ☎53-3636
●富士タクシー ☎61-2010
●平和タクシー ☎52-3010
■岳南電車の駅名
吉原駅 ジヤトコ前駅 吉原本町駅 本吉原駅 岳南原田駅 比奈駅 岳南富士岡駅 須津駅 神谷駅 岳南江尾駅
Fuji Dream Studio 501 鉄道模型の展示・販売
HINA-CAFE
岳電の車庫があり いろいろな車両が 勢揃いしています。
0 100m 200m